

松江市街地治水対策検討委員会 設立！

近年、松江市街地周辺は市街化の進行が著しく、雨水の保水や貯水機能のある田畑や山林が失われるだけでなく、一時的に雨を貯める役割を持っていた低平地への宅地化も進み、家屋や道路等で浸水被害が頻発しているため、早期の治水対策が求められています。

松江市街地の浸水被害の軽減・防止を図るためには、市街化の進んだ土地利用状況も考慮した河川の拡幅などの河道整備や内水排除ポンプの設置にあわせて、雨水排水管の整備や校庭に一時的に雨を貯留・浸透させるなどの流出抑制施設を整備するなど、総合的な治水対策が必要となります。

しかし、市街地での対策はコストが高く、整備に相当な時間がかかる上、観光やまちづくりへも配慮が必要です。最小限の改修で最大の効果が得られる治水対策が求められることから、計画策定には高度な技術と知識が必要となるとともに、市民との合意形成が重要と考えています。

このため、河川工学や環境、景観分野などの専門家と住民代表者で構成された松江市街地治水対策検討委員会を設立し、松江市街地を流れる河川（朝酌川・松江堀川・天神川等）の治水計画について検討していきます。

松江市街地治水対策検討委員会 委員名簿

氏名	役職等	備考
河原 能久	広島大学大学院工学研究科教授 松江市街地内水対策検討会学識アドバイザー	委員長
宇野 和男	松江工業高等専門学校教授 松江市都市計画審議会会長	委員長 職務代理
川池 健司	京都大学防災研究所准教授 松江市街地内水対策検討会学識アドバイザー	
越川 敏樹	宍道湖自然館（ゴビウス）館長 （財）ホザキグリーン財団事務局長理事 島根野生生物研究会 島根県河川整備計画検討委員会委員	
長山 宗美	島根景観アドバイザー 島根県野外広告物審議会、日本造園学会、 都市計画学会会員 島根県河川整備計画検討委員会委員	
鈴木 益彦	堀川遊覧船管理事務所 船頭	
久保里 砂子	松江市中心市街地活性化協議会 タウンマネージャー・街づくりコーディネーター	
渡部 浪子	法吉公民館 館長	松江堀川流域
田村 昌平	大橋川改修事業朝酌地区検討委員会委員長	朝酌川流域
川西 俊雄	朝日地区治水対策地区協議会	天神川流域
林 正道	国土交通省出雲河川事務所長	
福田 滋	島根県松江県土整備事務所長	
中島 広	松江市建設部長	

【事務局】島根県土木部河川課

第1回検討委員会 開催！

平成22年3月8日に「第1回松江市街地治水対策検討委員会」が開催されました。

第1回の今回は、松江市街地の河川の概要や浸水被害の状況、既存計画の概要及び治水対策に関する現状と課題について事務局から説明し、委員からは、「治水上効果があるからといって、一律に川幅を広げる計画では今ある素晴らしい川の景観を壊してしまう。多少は我慢することも必要なのではないか」「計画策定には合意形成を十分に図る必要がある。早い段階から情報提供を行っていくべき」「今後は『我慢』することも含め、どの程度の規模の洪水に対する計画を目指すのか議論していく必要がある」等の意見が出されました。

次回は現地視察を行った後、治水対策に関する課題をまとめ、今後の検討方針を決定する予定です。



松江市街地における治水対策に関する課題

□土地利用の変遷

- 特に高度経済成長期において、松江堀川の埋立が進行 川幅の減少、排水路の消滅
- 同時期に住宅需要の増による宅地開発、街路整備等の都市化を推進
浸水リスクの増大に対応できないまま市街化が進行
- 山地部の宅地造成による山林、田畑の消滅 保水・貯水機能の喪失
- 低平地への宅地造成による水田の消滅 遊水機能の喪失

河道への負担が増大

□自然環境

- 松江堀川浄化事業による宍道湖水の導排水
塩分濃度の変化に伴う多様な生物の生息環境に配慮が必要

□景観・観光・文化

- 松江堀川周辺は優れた景観、名所旧跡が集中しており、観光の中心となっている
松江堀川の整備には、景観、まちづくりへの配慮と十分な合意形成が必要

□水門・内水処理施設

- 堀川浄化事業及び堀川遊覧のため、水門・ポンプ施設等で松江堀川水位を一定に保っている（水門を閉めている期間が大半を占めている）
- 堀川周辺では農業用取水を行っているが、塩水が導水されているため、周辺の堰や水門が塩止の役割を持っている
急激な増水に対して、的確な水門等の操作が必要

□氾濫特性 別紙(解説)松江市街地で想定される氾濫形態(外水氾濫・内水氾濫・自己流氾濫)についてを参考としてください

- 過去の洪水より、松江市街地が最も被害を受けるのは外水氾濫である
大橋川改修（堤防、水門の整備）の促進が必要
- 外水位が高い場合は、自然排水が困難となり、内水氾濫が生じる
内水処理計画の検討が必要
- 時間30～50mm程度の雨量で自己流氾濫が生じ、被害が出ている地区がある
洪水を安全に流下させる断面が必要

□治水計画

- 斐伊川水系河川整備基本方針の変更（H21.3.6）
松江市街地の内水処理計画及び河道計画は、大橋川改修計画と密接に関連しており、大橋川改修との整合が必要
- 治水安全度を確保するためには、洪水を安全に流下させる河道断面が必要である
市街地における河川の拡幅は相当なコストと時間を要するため、効率的かつ効果的な河道計画の検討が必要

以上より、流域全体としての総合的な治水対策を検討する必要がある

お問い合わせ先: 松江市街地治水対策検討委員会 事務局
島根県土木部河川課企画防災グループ
TEL:0852-22-6747 / FAX:0852-22-5681

! 松江市街地治水対策検討委員会のHPを開設しました!
http://www.pref.shimane.lg.jp/kasen/matsuetisui/tisui_top/

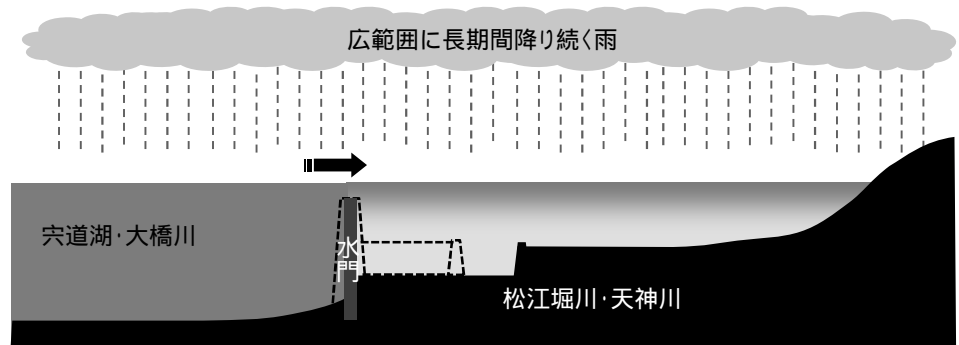
〔解説〕松江市街地で想定される氾濫形態(外水氾濫・内水氾濫・自己流氾濫)について

● 外水と内水とは... ●

堤防で守られる側を堤内地、河川側を堤外地といい、堤外地を流れる川の水を外水、堤内地に溢れる水を内水と呼んでいます。

● 外水氾濫とは... ●

外水である宍道湖・大橋川の水位が堤防を越える又は堤防が決壊して、堤内地である松江市街地が浸水することをいいます。
昭和47年や平成18年の浸水被害は主に外水氾濫によるものであり、外水氾濫が発生すると広い範囲で浸水し、大きな被害を受けることになります。
外水氾濫を防ぐためには大橋川改修が必要です。



● 内水氾濫とは... ●

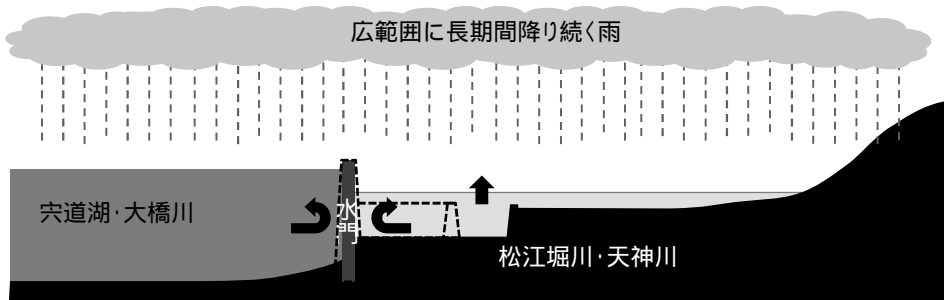
宍道湖や大橋川の水位が高い場合に、市街地に降った雨水が自然排水できず、浸水被害が発生することをいいます。

松江市街地の場合、外水対策が未だ十分ではないため、過去の洪水での主な浸水被害の原因は外水氾濫によるものであり、内水氾濫による浸水被害の状況は把握できていません。

内水氾濫の対策としてはポンプ施設による機械排水等があり、外水対策とあわせて検討、整備していく必要があります。

内水対策の案については、一昨年8月から今年1月にかけて、学識経験者の助言を得ながら国・県・市で検討し、1月18日に公表しました。詳細は県河川課HPをご覧ください。

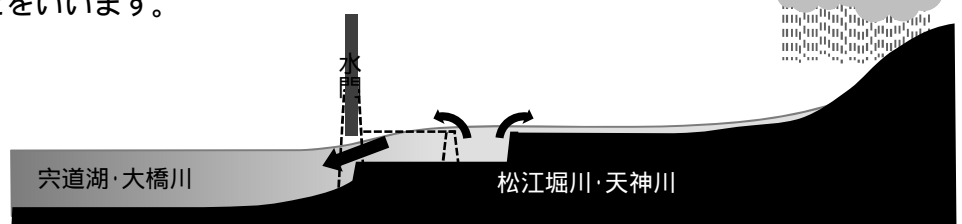
(http://www.pref.shimane.lg.jp/kasen/matsuetisui/naisui_top.html)



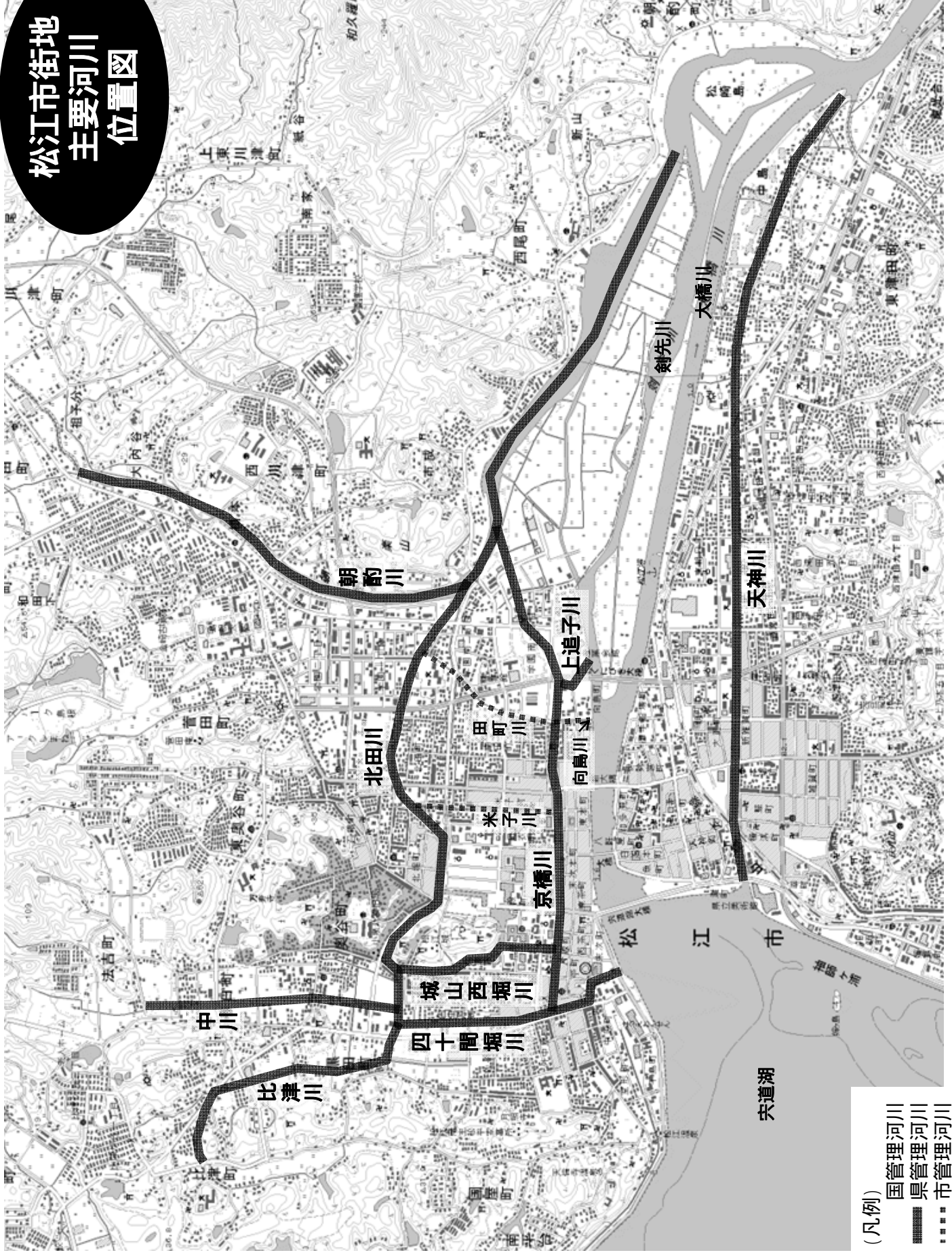
● 自己流氾濫とは... ●

宍道湖・大橋川の水位が平常時と変わらない時に松江市街地に大雨が降り、朝酌川や松江堀川、天神川の流下能力を上回る雨水が川に流れ込んで、浸水被害が発生することをいいます。

短時間に局所的に降る雨



松江市街地
主要河川
位置図



(凡例)
 国管理河川
 県管理河川
 市管理河川